

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立肥前中学校												
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目については、概ね達成できた。</li> <li>「1人1台端末を活用した授業改善」「望ましい生活習慣の形成」「安全に関する資質・能力の育成」については、十分達成できた。この成果を学力向上にもつなげていきたい。</li> <li>保護者や地域への情報発信など不十分などところについては、見直しをもって改善できるように取り組んでいきたい。</li> <li>令和5年度は「1人1台端末を活用した授業実践研究」の3年目となる。次のミッションである「コア・スクール・ネットワーク構想」に全職員で組織的に取り組み、その研究が生徒に還元できるように努めていきたい。</li> </ul>												
2 学校教育目標	志と誇りを胸に、夢に挑戦し続ける生徒の育成												
3 本年度の重点目標	<table border="0"> <tr> <td style="width: 15%;">I 確かな学力の育成</td> <td>⇒①「学ぶ力」を育成する教師の授業力の向上 ②生徒一人一人の夢や目標を育むための教育活動の推進</td> </tr> <tr> <td>II たくましい体力の育成</td> <td>⇒①食育の充実と健康の保持増進 ②体力・運動能力の向上</td> </tr> <tr> <td>III 思いやりの心の育成</td> <td>⇒①いじめを生まない土壌づくりと自他を大切にすることの育成 ②ボランティア活動の充実とボランティア精神の育成</td> </tr> <tr> <td>IV 生徒指導体制の充実</td> <td>⇒①自己指導能力の育成 ②発達支持、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止</td> </tr> <tr> <td>V 保護者連携・小中連携</td> <td>⇒①積極的な情報発信 ②共に育てるという雰囲気醸成</td> </tr> <tr> <td>VI 働き方改革とメンタルヘルス</td> <td>⇒①働き方改革の推進 ②メンタルヘルス対策</td> </tr> </table>	I 確かな学力の育成	⇒①「学ぶ力」を育成する教師の授業力の向上 ②生徒一人一人の夢や目標を育むための教育活動の推進	II たくましい体力の育成	⇒①食育の充実と健康の保持増進 ②体力・運動能力の向上	III 思いやりの心の育成	⇒①いじめを生まない土壌づくりと自他を大切にすることの育成 ②ボランティア活動の充実とボランティア精神の育成	IV 生徒指導体制の充実	⇒①自己指導能力の育成 ②発達支持、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止	V 保護者連携・小中連携	⇒①積極的な情報発信 ②共に育てるという雰囲気醸成	VI 働き方改革とメンタルヘルス	⇒①働き方改革の推進 ②メンタルヘルス対策
I 確かな学力の育成	⇒①「学ぶ力」を育成する教師の授業力の向上 ②生徒一人一人の夢や目標を育むための教育活動の推進												
II たくましい体力の育成	⇒①食育の充実と健康の保持増進 ②体力・運動能力の向上												
III 思いやりの心の育成	⇒①いじめを生まない土壌づくりと自他を大切にすることの育成 ②ボランティア活動の充実とボランティア精神の育成												
IV 生徒指導体制の充実	⇒①自己指導能力の育成 ②発達支持、未然防止、早期発見・早期対応、再発防止												
V 保護者連携・小中連携	⇒①積極的な情報発信 ②共に育てるという雰囲気醸成												
VI 働き方改革とメンタルヘルス	⇒①働き方改革の推進 ②メンタルヘルス対策												

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	中間評価 進捗状況と見通し	達成度(評価)	最終評価 実施結果		
●学力の向上	「学ぶ力」を育成する授業づくりの推進	○教育に関するアンケートにおいて、「肥前中の先生は、工夫して学力向上に取り組んでいる」と回答した生徒の割合を、80%以上にする。	・1人1台端末を活用した授業改善に取り組む、研究を進める。 ・全員による授業研究と授業研究会を行う。	A	・生徒の94.4%、保護者の92.6%が、肥前中の先生は1人1台端末を積極的に活用していると回答している。この結果からも肥前中学校の端末の活用が認識されていることが分かる。	A	・生徒の90%、保護者の93.2%が、肥前中の先生は1人1台端末を積極的に活用していると回答している。授業や各種アンケート調査等端末を活用しているため、この結果となった。	研究主任 教育相談担当 生徒指導主事 学力向上コーディネーター	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートで、「人の嫌がることを言ったり、したりしない」「いのちの教育についての取組は役に立っている」「積極的にボランティアに取り組んでいる」と回答した生徒を80%以上にする。	・計画的に継続的な道徳科の授業づくりを实践する。 ・生徒会を中心としたボランティア活動に積極的に取り組む。	B	・「人の嫌がることを言ったり、したりしない」が93.1%、「命の教育についての取組は役に立っている」が93.1%、「積極的にボランティアに取り組んでいる」が79.1%の生徒が肯定的な回答をしている。	B	・「人の嫌がることを言ったり、したりしない」が87.3%、「命の教育についての取組は役に立っている」が91.5%、「積極的にボランティアに取り組んでいる」が74.6%の生徒が肯定的な回答をしている。地域と共にボランティア活動を行っているが、生徒自らボランティア活動に取り組めるような体制づくりが必要である。	生徒会担当 道徳教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止、対応についての共通理解を回り、発覚時には組織的対応ができておりと回答した教員の割合が90%以上。	・学年の生徒指導部会を充実させ、学年で迅速に対応できる体制をつくる。 ・生活アンケートを定期的実施する。 ・開発的生徒指導を取り入れ、生徒に活躍の場を与え、自己肯定感を育てる。	B	・各担当や各担任が連携を密にし、いじめの早期発見や生徒の意識の高揚を図るよう「いじめの防止に組織的対応ができています」と回答した職員は、86.7%であった。	B	・各担当や各担任が連携を密にし、いじめの早期発見や生徒の意識の高揚を図るよう「いじめの防止に組織的対応ができています」と回答した職員は、60%であった。学年及び学年間の連携を強化していく必要がある。	生徒指導主事 教育相談担当 各学年主任	
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリアプランの作成とキャリアパスポートの記入による、見直し立てと振り返り活動を行う。 ・キャリアパスポートと学校生活を繋げることで、自分の長所に気づかせる。	B	・生徒の75%が「将来の夢や目標を持っている」と回答したが、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と感じているのは、69.4%の生徒しかない。	B	・生徒の76%が「将来の夢や目標を持っている」と回答した。 ・「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と84.5%の生徒が感じている。84.7%の保護者も「先生は、生徒の良いところを認めてくれている」と回答している。 ・年間を通じたキャリア教育の充実にも努めていく必要がある。	各学年主任 特別活動担当	
	●「望ましい生活習慣の形成」	●「毎朝朝食を食べて登校する」と回答した生徒を90%以上にする。 ●「起床時間と睡眠時間を設定している」と回答する生徒80%以上にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上にする。	・生活習慣アンケートの実施する。(運動・生活リズム・食事・安全について) ・毎日の健康観察を行い、自分の健康状態に気をつけるようにする。 ・食に関する取り組み(おにぎり弁当の日)を実施する。 ・生徒会の給食実践部の取組として、給食に使用されている食材について、情報を発信する。	B	・生徒の90%以上は、「朝食の大切さを理解し、毎朝朝食を食べて登校」したり、「健康に食事は大切である」と考えたりしている。保護者の90%以上も「健康に食事は大切である」と考えている。しかし、生徒も保護者も睡眠時間の重要性についてはあまり理解がない。	B	・生徒の90%以上は、「朝食の大切さを理解し、毎朝朝食を食べて登校」したり、「健康に食事は大切である」と考えたりしている。保護者の85%以上も「健康に食事は大切である」と考えているが、生徒も保護者も睡眠時間の重要性についてはあまり理解がない(起床時間や睡眠時間を設定している)と回答したのは生徒も保護者も70%程度)。今後は睡眠時間の重要性についても周知していく必要がある。	養護教諭 栄養教諭	
●健康・体づくり	○体力・運動能力の向上	○「スポーツをすることは楽しい」と回答した生徒を90%以上にする。	・体育大会やクラスマッチなどの体育的行事の充実を図る。 ・計画的な部活動運営と指導力の向上を図る。	B	・84.7%の生徒が「スポーツをすることは楽しい」と回答しており、興味・関心が高く、体育の授業や部活動にも積極的に取り組んでいる。	B	・84.5%の生徒が「スポーツをすることは楽しい」と回答しており、興味・関心が高く、体育の授業や部活動にも積極的に取り組んでいる。 ・クラスマッチなどの体育的行事を組み入れることができるかが課題である。	生徒指導主事	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・管理職の呼びかけと早めの退勤、定時退勤の可視化などの取り組みの結果、昨年度より時間外在校時間が25%減となった。 ・6月まで月45時間を超える職員は毎月3名いたが、7月以降はほぼ0名となっている。	A	・管理職の呼びかけと早めの退勤、定時退勤の可視化などの取り組みの結果、昨年度より時間外在校時間が30%減となった。 ・6月まで月45時間を超える職員は毎月3名いたが、7月以降はほぼ0名である。 ・職員会議等の資料は、ペーパーレス化を図り、端末を通しての情報共有に努めた。	管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	中間評価 進捗状況と見通し	達成度(評価)	最終評価 実施結果	主な担当者	
○開かれた学校づくり	○ICTを活用した情報発信	○「学校は情報発信に努めている」と答える保護者の割合を80%以上にする。	・はなまる連絡帳やホームページの更新頻度を高め、学校行事や生徒の様子を積極的に発信する。 ・地域の人的・物的資源(地域やPTAとの連携)を活用した教育活動を実施する。	A	・はなまる連絡帳やホームページなどを活用し、学校通信や月行事などを発信した結果、96.5%の保護者が概ねできていると回答している。	A	・はなまる連絡帳やホームページなどを活用し、学校通信や月行事などの発信、各種アンケート調査を実施した結果、93.2%の保護者が概ねできていると回答している。	管理職	
○小中連携	○小中連携による共通理解と共通実践	○学校アンケートで、「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくりを進めている」と回答した保護者を80%以上にする。	・肥前中校区教育研究会を充実させ、小中連携した取組を行う。 ・小中連携の取組を積極的に保護者に発信する。	B	・77.9%の保護者が「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくり」が概ねできていると回答している。	A	・89.8%の保護者が「校区の小学校と連携して、生活・学習習慣づくり」が概ねできていると回答している。定期的に校内の小中学校が長期休業中の生活について共通の取り組みとして行ってきた結果だと考える。	管理職 教務 研究主任 生徒指導主事	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>各評価項目については、概ね達成できた。学力向上や睡眠の大切さなど取り組みが不十分などところについては、見直しをもって改善できるように取り組んでいきたい。</li> <li>生徒が自信をもって「将来の夢や目標を持っている」といえるよう、年間を通じたキャリア教育の充実にも努めていく必要がある。</li> <li>各担当や各担任が連携を密にし、いじめの早期発見や生徒の意識の高揚を図るよう「いじめの防止に組織的対応ができています」と回答した職員が、86%から60%に低下した。来年度は学年及び学年間の連携を強化していく必要がある。</li> </ul>								